元気企業訪問

但馬米穀㈱
㈱坪口農事未来研究所
豊岡市

但馬米穀㈱
取締役営業部長
黒田 貴之

㈱坪口農事未来研究所
代表取締役
平峰 英子

ひょうご農商工連携ファンド事業助成金を活用して

- ●但馬で完結する商品を開発できた
- ●6次産業化の足掛かりとなった
- ●但馬の農産物と観光のPRにつながった

女性をターゲットにした日本酒と甘酒

米穀卸売業者と農家がタッグを組み 主食用米で日本酒と甘酒を開発

女性をターゲットに商品化

但馬米穀㈱は豊岡市内で米穀の卸売事業を手がけてきましたが、近年は農家に対し、農地に組み立てた架台にソーラーパネルを設置し発電と栽培を同時に行うソーラーシェアリングや、ITを活用したスマート農業の提案も積極的に行っています。

㈱坪口農事未来研究所は同市内に約31haの農地を耕作する中規模農家です。水稲ではコウノトリがすみやすい環境で栽培する有機農法「コウノトリ育む農法」に取り組み、野菜では有機JAS認証を取得。生産した米や野菜は食にこだわる旅館やレストランに納めるほか、東京の百貨店でも販売しています。

農商工連携の助成金を知った但馬米穀の黒田貴之取締役は、主食用米の需要減少を打破すべく、「取り扱っている米を使って6次産業化し、ブランド品を創出したい」と以前から取引のあった坪口農事未来研究所に声をかけました。一方、同研究所の平峰英子代表は「農作物の加工に取り組んでみたいと思っていた」と二つ返事で快諾。〝生産から醸造まで但馬で完結〟を掲げ、主食用米「ほむすめ舞」を原料に日本酒と甘酒を造ることにしました。

平峰代表をはじめ、醸造を委託した此の友酒造㈱（朝来市）の蔵人、ラベルのデザイナーなどプロジェクトに関わるメンバーの大半を女性が占めたことから「女性をターゲットにした商品作り」に方向性を定め、日本酒は「ワインのような甘酸っぱい味わい」を、甘酒については古代米「黒米」も加えてほんのりピンクがかった仕上がりを目指しました。試作品が出来上がると、助成金を活用して約600人にアンケートを実施。そこで出た声を踏まえ、ラベルや瓶のデザインを見直しました。

加工品の開発が加速

商品は2020年冬に完成し、日本酒は「非時（ときじく）」、甘酒は「ときじくの舞」の商品名で発売。原料米を生産している豊岡市神美地区の中嶋神社に祭られているお菓子の神様、田道間守命（たじまもりのみこと）が垂仁天皇の命を受けて探し出した不老不死の実「非時香菓（ときじくのかぐのこのみ）」にちなんで名付けました。

黒田取締役は「販路開拓で苦労はある」と言うものの、特に甘酒はアイスクリームやヨーグルトにかけてもおいしいと評判で、注文が相次いでいます。一方、日本酒については販路開拓に向け、米の取引店に酒も置いてもらうよう働きかけているそうです。

制度利用までの流れ

- **2019年8月**　但馬米穀㈱が助成金を申請
- **12月〜20年9月**　審査を通過し、助成事業を実施
- **10月**　当センターに事業実績を報告
- **11月**　当センターから助成金を交付

坪口農事未来研究所の倉庫には出荷を待つ「コウノトリ育むお米」も

坪口農事未来研究所が所有する水田

「商品を通して地元の中嶋神社、そして但馬の自然の豊かさをもっと多くの人に知ってもらいたい」と平峰代表。坪口農事未来研究所では今回の事業を足掛かりに県産ニンジンを使ったジュースも試作しており、今後も積極的に加工品の開発に取り組もうとしています。

但馬米穀㈱
豊岡市中陰318-3　T0796-22-2131
Hhttp://www.tanbei.co.jp

㈱坪口農事未来研究所
豊岡市三宅318-1　T0796-26-0190
Hhttps://tsuboguchi-agri.com/

ひょうご農商工連携ファンド事業助成金

県内の中小企業者等と農林漁業者の連携体による新しい商品・サービスの開発を支援します。

【対　象　者】県内の中小企業者等と農林漁業者の連携体
【対象事業】県内の農林漁業資源を活用した新商品の開発、新サービスの提供のために取り組む事業
【対象経費】研究開発費、販路開拓費
【助　成　額】上限400万円（対象経費の3分の2以内）

利用メリット

- 中小企業者と農林漁業者の互いの強みを生かした商品開発が可能になり、新たなビジネスチャンスを創出します
- 助成支援を受けた商品については、兵庫県とひょうご産業活性化センターが共同してPRを支援します

問ひょうご産業活性化センター新事業課
T078-977-9072
制度の詳細についてはホームページをご覧ください